

令和六年度

# 中学校入学試験問題 国語

第二回（二月二日）

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきましょう。

- 一、問題は30ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

次の文章を読んで、後の1〜13の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

『シロクマ効果』って、知ってるか？』

初耳だった。首を横にふると、黒野くんはほほえんだ。

『これから十分間、シロクマのことだけは考えないでください』って言われたら、逆に考えちゃうだろ？ そういう話だ』  
私はだまっていた。よくわからなかった。

シロクマ効果のことじゃなくて、どうして黒野くんがそんな話をしたのか、が。

『剣道でさ、練習の終わりに黙想っていうのをやるんだ。こう、正座して、手をひざの上で組んで、目を閉じて。心を無にするっていうけど、まあ無理な話だよな。なにも考えないようにしようとしても、なにかしらは考えてしまう。無にしよう、無にしよう、と思っ  
ていても、『無にしよう』って考えている時点で、それ、ちつとも無じゃないよな』

『……それが？』

私がたずねると、黒野くんはうなずいた。

『考えることから、人間は逃げられないって話。悩みから目をそらそうとしても、なかなかそううまくいかない。生きるってむずかしいよな』

そう言っつて、いたずらっぽい目で私を見る。

『それで？ 聞かせてくれよ。白岡六花にとつてのシロクマはなんだ？』<sup>①</sup>

なにもかも見透かしたような目つきで、からかうように黒野くんはたずねた。

私はだまって、スケッチブックに目を落とす。4Bの鉛筆えんぴつを走らせて、黒野くんの絵をしあげていく。しずかに文庫本を読む中性的な少年。

しばらくして、私は言った。

「私、友だちいないから。なかなかおりのやりかたも、よくわからなくて」

「そっかそっか。なかなかおりのやりかたね……」

それからしばらく考えて、黒野くんはこんなことを言いました。

「やっぱりさ、気持ちが大それたよな。ほら、言葉や形よりさ、中身よ」

中身。

「自分がどういう気持ちでいるのかをさ、伝えればいいわけだろ？ なんだかんだぶつかったけれど、これからもまた、なかよくしたいって」

「そう。なかよくしたい」

もう一度、早緑さみどりと、いっしょに過さこせるように、なりたい。

「 A 」

「うん……うん？」

「となると、けつきよく、言葉とか、形とかで、表現するしかないよな」

黒野くんは言った。私はまじまじとその顔を見た。

真剣な表情だったけれど、くちびるのはしのほうがひくひくしている。

そこで、私はようやく気づいた。

「 B 」

「まあ、そうだな」

くすくす笑う黒野くん。ぜんぜん悪びれない<sup>②</sup>。

「で、そもそもどうしてけんかになったんだ？」

私はちいさくため息をついた。

「……意見の不一致<sup>ふいっち</sup>」

そう。

言ってしまうえば、それだけのこと。

黒野くんはうなずく。

「それこそ、気持ちの問題だな」

私はちよっとむっとした。「 C 」

すると、黒野くんは言った。

「そりゃそうだろ。気持ちの問題ほどむずかしいものはこの世にないよ」

その声はひどくやさしくて、だから私はなにも言えない。

黒野くんは私を見て目を細めた。

「その子、名前は？」

私はすこし迷ったけれど、首を横にふる。

「……言いたくない」

「そっかそっか。それならそれでいいけどな。でも、大事な人なんだろう？」

大事な人——その言葉に、私の鉛筆を持つ手が止まる。<sup>③</sup>

スケッチブックに写した、文庫本を読んでいる黒野くんの姿。

しばらくして、私はちいさくうなずく。

黒野くんはやわらかくほほえんだ。

「<sup>④</sup>じゃ、なかなかおりのチャンスが来たら、逃<sup>のが</sup>すんじゃないぞ」

チャイムの音が響いた。

《 中略 》

「見つけ！ って、あれ……？」

そんな声が出て、私は顔をあげた。心臓が止まるかと思った。

「おかしいなあ。いたと思ったんだけど」

そう言いながら、すべり台の下をのぞきこむポニーテール。

思わず、声もれた。

「早緑……?」

結ゆわえた髪かみがなびく。ふり返った早緑の目が、びっくりしたように大きくなる。

「六花」

沈ちんもく黙もくがあった。

⑤ 早緑は気まずそうだった。そうだろうな、と私は思う。私だって気まずい。だけど、いつまでもだまっているわけにはいかない。

D、こんなことをたずねた。

「……『見つけ』って、なんのこと?」

「え? あ、うん。そうね。あのー、野良のらネコがね、公園にいるって聞いてさ」

ごまかすように笑う早緑。私はうなずいた。

正直ちよつとおもしろかった。でも、どんな顔をしていいかわからない。

「だれに聞いたの?」

「くろ……いや、いいじゃん。そのことは」

早緑、照れているみたい。私はくすんと笑った。

「六花は、どうしたの? またスケッチしてたの?」

「……しようと思っただけど、気分が乗らなくて」

私の言葉に、早緑は眉間みげんに E しわをよせる。それから、 F 歩いてきて、となりにすわった。カバンをベンチに置いて、

足を G させる。

「なんか、ひさしぶりだね」

⑥【】にも葉にもならないような私の言葉を無視して、早緑は言った。

「六花、やっぱりまだ、部室で絵を描かないんだね」

私はだまっていた。なんて言ったらいいのか、ひとつも思いつかなかった。

しばらくして、早緑は口を開いた。

「あのね、六花。あたしさ、ずっと言いたかったことがあって」

その真剣な声に、覚悟を決めたような表情に、さっと心が冷えるのを感じた。無意識に体がぎゅっと縮こまって、ようするに私はこわがっているらしい。

わかったからだ。早緑が、あの日の続きを話そうとしているって。

逃げだそうかと、一瞬思った。

このまま立ちあがって、ふり返らずに立ち去ってしまおうか、と。

だけど……。

——じゃ、なかなかおりのチャンスが来たら、逃すんじゃないぞ。

「……なに？」

⑦しほりだした声はかすれていた。早緑はうなずく。

「あの、こんなこと今言ってもしょうがないのかもしれない。六花のこと、こまらせたらごめん。でも、言わなきゃって、ずっとずつと、そう思ってた」

何重にも予防線を張るように前置きをしてから、早緑はためらいがちに言った。

「あたしさ……ほんとのこと言うと、毎日泣いてたんだ。あのころ泣いてた？」

「……私とけんかしてから、ってこと？」

早緑は首を横にふった。

「ううん、ちがうちがう。そうじゃなくて、そのまえから」

「そっか……うん」

<sup>9</sup> ちよっぴり期待して、それからがっかりした自分が、ひどくはずかしい。

って……え？

「私とけんかする、まえ？」

早緑はうなずく。

「陸上部の練習が、いやでいやで。みんな、あたしよりずっと足が速くてさ。練習もきつくて、ぜんぜんついていけなかった。先輩せんぱいこわいし。しょっちゅうおこられてたし。ほんと、毎日毎日、つらくてしょうがなくて。家でめそめそ泣いてたの」

私はとなりを見た。なつかしい、早緑の横顔。遠くを見つめる黒い瞳ひとみ。

(村上雅郁むらかみまさかみ『きみの話を聞かせてくれよ』による)



問1 —線①「シロクマ」とあるが、ここでの「シロクマ」とは、具体的に何をたとえているか。文章中から二字でぬき出しなさい。

問2

A

く

C

に当てはまる表現として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

イ からかっているでしょ

ロ きつとなんとかなると思っているんだね

ハ 気持ちの問題なんかじゃないよ

ニ そんな、かんたんな話じゃない

ホ でも、気持ちは目に見えないからな

問3 —線②「悪びれない」のここでの意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 相手のことを考えて自分は完全な悪役に徹している。

ロ 自分がしたことをまったく申し訳なく思っていない。

ハ 本当は興味があるのに少しも関心が無いふりをしている。

ニ 笑ってはいるが実際はちっとも面白いとは思っていない。

問4 — 線③「私の鉛筆を持つ手が止まる」とあるが、このときの「私」の様子の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 「私」への共感を示し<sup>げきれい</sup>激励してくれた「黒野くん」の言葉に感動し、「私」の鉛筆を動かす手が思わず止まっている様子。

ロ 「黒野くん」の言葉により、自分にとって重要なことがわかった喜びを感じて、「私」が絵を描くのを中断している様子。

ハ 「私」が<sup>ふ</sup>触れられたくない事実を「黒野くん」が言葉にしたことに<sup>おどろ</sup>驚き、その<sup>どうよう</sup>動揺から「私」が手の動きを中断させた様子。

ニ 「黒野くん」の言葉で、今まで意識しなかった大切なことに気付いてはっとし、「私」の鉛筆の動きが止まってしまった様子。

問5 — 線④「じゃ、なかなかおりのチャンスが来たら、逃すんじゃないぞ」とあるが、「黒野くん」はこの時どのような口調で話したと考えられるか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 冷やかすようなからかいを込めた口調。

ロ 命令をするような<sup>うむ</sup>有無を言わせない口調。

ハ さとすようなゆったりとした<sup>おだ</sup>穏やかな口調。

ニ あえてつき放すような静かで落ち着いた口調。

問6 《中略》より前の文章から読み取れる「黒野くん」の人物像として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 失敗続きの「六花」と励まし合いながら、お互いを高めていくことができる人物。
- ロ 不器用な「六花」とは対照的に、どんなことでも上手にこなすことができる人物。
- ハ 「六花」の言葉に左右されず、自分の意見を最後まで押し通すことができる人物。
- ニ 「六花」の話に耳をかたむけ、その気持ちに寄りそって接することができる人物。

問7 —線⑤「早緑は気まずそうだった。そうだろうな、と私は思う。私だって気まずい」とあるが、なぜ「早緑」と「私」は気まずかったと考えられるか。その理由を説明した次の文の【】に当てはまる表現を、十字以上十五字以内で答えなさい。

・二人が【 】。

問8 D G に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

- イ すたすたと
- ロ おずおずと
- ハ ずけずけ
- ニ ぱたぱた
- ホ きゅつと
- ヘ じつと

問9 — 線⑥「【】にも葉にもならない」が「じゃまにもならないが、ためにもならない」という意味になるように、【】に当てはまる漢字一字を答えなさい。

問10 — 線⑦「しほりだした声はかすれていた」とあるが、このときの「私」の気持ちを表す言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 緊張感きんちやう
- ロ 孤独感こどく
- ハ 罪悪感
- ニ 失望感
- ホ 不快感

問11 — 線⑧「予防線を張る」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 事前に準備をすることで、自分の立場を優位に保つ。
- ロ 失敗することを避けるさために、先回りして準備する。
- ハ 相手から非難ひなんされないために、反対にこちらから先に攻撃こうげきする。
- ニ 意見を主張することで、自分の誤りに気づきづかれないようにする。

問12 — 線⑨「ちよっぴり期待して、それからがっかりした自分」とあるが、具体的に何を「期待して」、何に「がっかりした」の

か。それを説明した次の文の【 I 】【 II 】に当てはまる表現を、（ ）内に示した指定の字数で答えなさい。

・ 【 I (二十五字以内) 】と期待したが、【 II (二十字以内) 】がっかりした。

問13 この文章の表現上の特徴を説明した文として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 色彩をあらわす言葉を使い、視覚的な鮮やかさを演出している。

ロ 会話を中心に展開することで、物語がテンポよく進んでいる。

ハ 回想シーンを入れることにより、登場人物の心情の変化を印象づけている。

ニ 擬態語やカタカナ言葉を用いて、登場人物の様子をいきいきと描いている。

二 次の文章を読んで、後の1～14の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります。※のついた説明は出

題者が加えたものです）。

陸上の動物は、 A  や  B  をフルに活用しながら求愛戦略を練ることが多い。一方、太陽光のほとんど届かない海の中では、

A  はさして役に立たない。 B  も、水中ではニオイの分子の拡散速度が遅く、十分に働かない。

そこで、流行りのラブソングを歌い、 C  を利用してメスにアプローチする海の動物が現れた。その代表格がザトウクジラである。水中での音の伝搬速度は大気の4倍ともいわれており、より遠く、より速くソングを響かせることができるのである。

ザトウクジラはナガスクジラ科の一種で、世界中の海に生息する。赤道を挟んで北半球に生息する群と、南半球に生息する群に大別でき、それぞれさらに複数の群に分かれるが、すべてのザトウクジラに共通するのは、毎年数千キロメートルに及ぶ季節性の大回遊を行うことである。

北半球では、暖かい季節（初夏から初秋）は、エサが圧倒的に豊富な寒い高緯度の摂餌海域で、貪るようにエサを食べて体に栄養を蓄え成長し、寒い季節（晩秋から初春）が近づくと、暖かい低緯度海域へ移動して繁殖活動を行い、春になると再び高緯度の海域へ戻っていく。そうした回遊を毎年繰り返している。

日本近海では、初秋から早春にかけて、沖縄や小笠原諸島周辺でザトウクジラの姿を目にすることができ、この一群は約5000キロメートルも離れたベーリング海から、出産・子育てを目的にやってくる。オスもメスも長旅に備え、ベーリング海に在る間に、オキアミやイカナゴ、タラ、カラフトシシヤモ、カタクチイワシなどの群性生物を「これでもか」というほどたらふく食べる。ザトウクジラのエサの摂り方はきわめて特徴的なので、求愛戦略の話の前に少し紹介しよう。

クジラの仲間、口の中に歯のある「ハクジラ」と、歯の代わりにヒゲ板をもつ「ヒゲクジラ」の2種類に大別される。ザトウクジラは後者に属し、ヒゲ板を使ってエサを摂る。ヒゲ板は、上顎の粘膜がケラチン化して伸長したもので、上顎だけに存在し、上顎の全長にわたり数百枚のヒゲ板が1列に連なっている。エサを食べるときは、大量の海水ごと一気に口の中に流し込み、ヒゲ板を使ってエサとなる生物だけを漉し取る。

このとき、エサと共に取り込む海水の量は1回50トンを超えともいわれている。ザトウクジラの体重は30トン程度だから、体重の2倍近い量の海水がエサと共に流れ込んでくることになる。

人間は一度にそんなに多量の水を体内に入れることはできないが、ザトウクジラを含むナガスクジラ科のクジラは、進化の過程でそれをクリアできるしくみを生み出した。大量の水とエサを一時的に貯留できる空間を体内につくったのである。それが「腹側嚢 (Ventral Pouch)」と呼ばれる空間である。

腹側嚢は、ザトウクジラを含むナガスクジラ科が備えており、喉から腹部にかけて存在するウネ (畝・伸縮性に富んだ蛇腹状のひだ) の皮下にあり、エサと共に大量の水が口の中に入ってくると、口の床が落ち込んで腹側嚢へ流れ込むしくみになっている。

その後、ウネや舌、喉の筋肉などを巧みに使い、水とエサを口の中に戻しながらヒゲ板でエサだけ漉し取り、水は外へ排出するのである。非常にダイナミックな摂餌法で、大量の水とエサで蛇腹のウネが最大限伸長したとき、ザトウクジラを含むナガスクジラ科のクジラの頭部の腹側は大きく膨らみ、<sup>③</sup> さながらオタマジャクシのような外観となる。ウネはそれほど伸縮性に富んでいる。

ウネと近い構造としては、イヌやネコの首の背中側の皮膚を摘まむと、皮膚の下にたるたるした隙間がある。獣医学の領域ではそこに皮下注射を打つのだが、あの構造と少し似ている。

エサの豊富な海域で体にたっぷり栄養を蓄えたザトウクジラは、秋を迎える頃、約30〜40トンもの巨体を揺らしながら、時速5〜15

キロメートルで大海原おおうなばらを泳いで5000キロメートル先のハワイや沖縄、小笠原諸島という繁殖海域かふなへ向かう。

その道程で、ザトウクジラのオスたちは、求愛のためのソングをつくり上げていくのである。

ザトウクジラのソングは、複雑な階層で構成されている。少し専門的な話になるが、ザトウクジラのオスは、繁殖期になるとどこからともなく、ある規則をもって発せられるいくつかの音の連なりと定義される「ソング（歌）」を奏かなでるようになり、これが反復されると長時間の鳴音となる。

イ このいくつかのテーマが集まって「ソング」を形成するようだ。

ロ 同じフレーズがテーマを構成し、フレーズが異なると出てくると、それに伴ともないテーマも変化する。

ハ 音の最小単位をユニットと呼び、ユニットがいくつかのかたまりをつくりだして、サブフレーズやフレーズを形成する。

ニ このような「ソング」は、ザトウクジラほど複雑な構造ではないものの、同じヒゲクジラ類のシロナガスクジラ、ナガスクジラ、ホッキョククジラ、ミンククジラも奏でることが知られている。

ヒゲクジラ類は、ハクジラ類の行うエコーケーションちようおんぱ（自ら発した超音波はんきようの反響により、自分の位置や周囲の物体との距離きより、方向などを認知にんちする方法）を行わないため、ハクジラ類の発する「鼻声門（フォニック・リップス）」や、その鳴音を調整する音響脂肪おんきようしぼうの「メロン」は存在しない。

そのため、ソングをどこから発しているのかは、いまだに明確には解明されていない。繁殖時期にオスだけがソングを奏でることか



ら、メスに対する求愛行動の一つであることは明らかだが、実際にどのように活用されているのかは□<sup>④</sup>解明な部分が多いのが現状である。ザトウクジラのソングは、毎年変化する。つまり、繁殖期の初めの頃には、前年と同じようなソングを歌っていた個体も、誰か<sup>だれ</sup>が新しい歌を奏できるようにするとすぐに覚えて、その繁殖海域のザトウクジラはみな同じソングを奏できるようになり、流行歌が生まれる。いったい誰が最初に歌い始めて、それがどうやって広まるのか、そのメカニズムは今でも研究されている。ただ、北半球では西から東の海域へ伝わる<sup>かくにん</sup>ことが確認されている。つまり、<sup>⑤</sup>摂餌海域からこの歌合戦は始まっているようなのである。

ザトウクジラのオスが、求愛戦略として他のクジラと□<sup>⑥</sup>線を画す複雑なソングを歌い始めた背景には、大規模回遊を行うことが深く関係する<sup>⑦</sup>と考えられている。繁殖海域へ向けて回遊する際、ザトウクジラは20〜30頭で移動するが、固まって移動するわけではなく、おのおの自分のペースで進む。

ゴールの繁殖海域は決まっているものの、繁殖海域に到着<sup>とちやく</sup>してからメスを探したのでは、ライバルがわんさかといて、遅きに失する可能性が高い。ゴール地点までに少しでも早くメスに出会ったほうが断然有利になるが、広い大海原でオスとメスが出会うのは、そう簡単なことではない。

そこで、繁殖海域へ向かう途中<sup>とちゆう</sup>でメスに気づいてもらえるように、ザトウクジラのオスは、自慢<sup>じまん</sup>の複雑なソングを奏でて「ボクはここにいるよ」とメスにアピールすることにしたと考えられる。その歌声は、およそ3000キロメートル先まで響くといわれている。オスとメスがめでたく出会ってペアになると、一緒に<sup>いっしょ</sup>並んで泳いだり、胸ビレ<sup>むな</sup>でふれ合ったり、体を密着させる様子も見られる。交尾<sup>こうび</sup>を終えた後も、しばしのデートを楽しむ場合もある。

オスの必死の努力とは裏腹に、繁殖期のザトウクジラのメスは、何もしなくてもとにかくモテモテである。メスの周りには複数のオ

スが集まり、一夫多妻ならぬ D の様相を呈する。確実に子孫を残すためにメスは何頭ものオスと交尾をし、妊娠して出産したあとは子育てに専念する。

子連れのメスは、基本的に発情することはない。子どもが生まれると、分泌されるホルモンが切り替わるからだ。発情している間は、女性ホルモンの一種であるエストロゲン系のホルモンが多く分泌されるのに対し、子育て中は乳汁分泌を促すプロラクチンや、愛情ホルモンとも呼ばれるオキシトシンなどが多く分泌される。このホルモンの影響で「オスより我が子！」のモードになり、オスのことはまったく眼中になくなる。

【I】 そんな子育て中のメスの周りにも、常に数頭のオスが寄り添い、ソングを歌い続ける様子が見られる。陸上の哺乳類のオスに見られる「子殺し（別のオスの子どもを殺してメスの発情を促す行為）」などは行わず、それどころか、子連れのメスを見つくと母子を共に守るような行動を示す。《イ》

そうしたオスは「エスコート」と呼ばれ、母子クジラが波風の少ない浅瀬や島影などへ行けば、エスコートのオスも大きな胸ビレを巧みに操って、母子に危険が及ばないように注意しながら並走するのである。ザトウクジラのオスの徹底したジェントルマンの対応は、まさにエスコートの呼称がふさわしい。《ロ》

もちろん、オスたちも無償で母子をエスコートしているわけではない。母子を守りながら交尾のチャンスを虎視眈々と狙い、わずかな確率に賭けるのである。実際にエスコート役のオスが交尾する行動が繁殖海域で見られることはあるが、それが妊娠に繋がっているかどうかは定かでない。

そんなオスを尻目に、子連れのメスはエスコートされることを当たり前と受け止めているのか、オスに守られながら子育てを完了させる。その年に交尾できなかったオスは、翌年までチャンスをもち越すことになる。不憫な気もするが、「来年こそは」というオスの強

い思いが、他のクジラに真似できない特有の複雑なソングを生み出す原動力になっているのかもしれない。

ザトウクジラの優しさは、繁殖活動以外の場面でも散見される。【Ⅱ】、繁殖海域で子育てをしていた母子クジラが、春になってエサの豊富な海域へ移動する際、子どもはまだよちよちの幼い場合が多い。そんな母子を撰餌海域で待ち伏せしているのが、前出の Killer whale (※この文章より前の部分で述べられているシャチの英名。)としてのシャチである。《ハ》

カナダの研究チームが撮影に成功したケースでは、メキシコの近海からベリング海海の近くまでやっとの思いでたどりついたコククジラの親子に対し、突如どこからともなくシャチの群れが猛スピードで襲いかかろうとした。

しかしその瞬間、こちらもどこからともなく数頭のザトウクジラが現れ、コククジラの母子をかばうようにシャチとの間に分け入った。その結果、あのシャチですら止むなく退散したという。間一髪でコククジラの母子は助かり、ザトウクジラたちは何事もなかったかのように、その場をスーッと立ち去ったそうだ。《ニ》

別のエピソードでは、氷上にいたアザラシにこれまたシャチが複数で突進し、海へ転げ落ちたアザラシを食べようとしたとき、これまたどこからともなく現われた1頭のザトウクジラが、アザラシを体の脇に乗せて仰向けのまま数十分泳ぎ続け、シャチからアザラシを助けたという。クジラにとって仰向けで泳ぐという行動は、その間の呼吸ができず、命に関わる。【Ⅲ】、このザトウクジラは自分の命を賭けてまで1頭のアザラシを助けたことになり、驚くべき行動である。

【Ⅳ】、ザトウクジラの知能と社会性の高さを感じる行動はエサをとる時にも見られる。彼らは、仲間同士で協力してエサを追いつまむ。バブルネットフィーディングという撰餌方法を実践する。これは群集性のエサ生物の周りを、複数のザトウクジラが等間隔で時計回りに円を描きながら泳ぎ、噴気孔から泡を出しながらゆっくりと浮上し、泡のネット(バブルネット)でエサ生物を群れごとトラップし、海面で一網打尽に仕留めるのである。動物界では、仲間で協力し合ってエサを取るとは比較的珍しく、この撰餌方

法を行うのは、クジラの中でもザトウクジラだけである。

ザトウクジラのソングは、You Tubeや市販（しはん）されているCDでも聞くこともできる。または、繁殖海域の沖縄や小笠原諸島で、素潜（すもく）りすれば生のソングを聞くことができるし、ハイドロフォン（水中マイク）を搭載（とうざい）した観光船に乗れば、スピーカーから今年流行りのソングも耳にすることができかもしれない。

ザトウクジラのソングは、音に高低差や強弱があり、長い音や短い音の繰り返しで、楽器の中ではピアノやオーボエの音色（おんしき）を彷彿（ほうふ）させる。ザトウクジラのソングを愛してやまない私は、その鳴音を聴くとすぐに涙腺（なみせん）が崩壊（ほうかい）してしまう困った事態（おちい）に陥る。

ソングを奏でているクジラに素潜り（すもく）で近づいていくと、音が聞こえるだけでなく、身体にその振動（しんどう）も伝わってくることもしばしばであり、まさに、天然のドルビーサラウンド効果であろう。

（田島木綿子『クジラの歌を聴け 動物が生命をつなぐ驚異のしくみ』による）

問1 □A □C に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（□A、□Bはそれぞれ二か所あるが、同じ言葉が入る。同じ記号は二度使えない）。

- イ 嗅覚（きゅうかく）      ロ 視覚      ハ 触觉（しよくかく）  
ニ 聴覚（ちようかく）      ホ 味覚

問2 — 線①「アプローチ」とあるが、この「アプローチ」とほぼ同じ意味で使われている漢字二字の言葉を、文章中からぬき出しなさい。

問3 — 線②「ザトウクジラのエサの摂り方」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 一回50トン以上の大量の海水と共に取りこんだエサを、口の中にある歯と一列に並んだヒゲ板を巧みに使うことで体内にとりこむ。

ロ 口に入れたエサと大量の水は一度体内のある空間にためられ、その後また口にもどしてヒゲ板でエサだけを漉し取り水を外に出す。

ハ 口の中の舌やヒゲ板や喉の筋肉によって体内に運んだ大量の水とエサを、大きくふくらんだ腹部でそのまま長時間たくわえておく。

ニ 皮膚の下のクジラ特有の空間に大量のエサをためこんだ後、時間をかけてヒゲ板によってゆっくり後方の消化器官に運ばれてゆく。

問4 — 線③「さながら」という言葉が正しく使われている文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 私がさながら怒ったら、人はどう思うだろう。

ロ さながら冗談だとしても、夢のような話です。

ハ その姿はさながら眠ったネコである。

ニ 先生の無事をさながらお祈りします。

問5  で囲まれたイ〜ニの文を、正しい順序に並べかえて記号で答えなさい。

問6 — 線④「 解明」の には否定の意味を持つ漢字が入る。これと同じ漢字が に入るものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ  関心      ロ  成年      ハ  可決      ニ  常識

問7 — 線⑤「撰餌海域からこの歌合戦は始まっているようなのである」とあるが、そうしなければいけないのはなぜか。その理由を四十字以上五十文字以内で説明しなさい。

問8 — 線⑥「 線を画す」が「他と区別できるほど優<sup>すぐ</sup>れている」という意味になるように、 に当てはまる漢字一字を答えなさい。

問9 Dに当てはまる漢字四字の言葉を、考<sup>かんが</sup>えて答えなさい。

問10 【Ⅰ】〜【Ⅳ】に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

- イ さらに
- ロ しかし
- ハ たとえば
- ニ つまり
- ホ ところで

問11 —線⑦「摂餌海域」とあるが、ここでの「摂餌海域」とはどこのことか。次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ インド洋
- ロ 小笠原諸島周辺
- ハ ハワイ諸島周辺
- ニ ベーリング海

問12 —線⑧「彷彿させる」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 思い出させる
- ロ 刻み込こませる
- ハ 組み合わせる
- ニ 引き立たせる
- ホ 響ひびき渡わたらせる

問13 次の一文は、文章中の《イ》〜《ニ》のどこに当てはまるか。最も適当なものを、一つ選んで記号で答えなさい。

・まさに、ヒーロー中のヒーローである。

問14 この文章の内容に合っているものを、次の中から二つ、選んで、記号で答えなさい。

イ クジラは、「ハクジラ」と「ヒゲクジラ」の二種類に大別されるが、ザトウクジラは歯を巧みに用いて捕食するため、前者に属する。

ロ ザトウクジラのソングは毎年変化し、その年流行ったソングをみなが奏でるが、その奏でる方法も広まる仕組みも詳しくは分かっている。

ハ 子育て中のザトウクジラメスに対して、オスが優しく寄り添うことがあるが、これは決してメスからの見返りを求めるためのものではない。

ニ ザトウクジラは他のクジラと違い、エサを捕食する際に仲間同士で連携し合うことがあるが、これは動物界では比較的珍しいことである。

ホ 数千キロメートルに及ぶ大回遊を行うザトウクジラは、冬になると摂餌海域に移動し自分の存在をアピールするためのソングを奏で始める。



(問題は次のページに続く)

二二

次の文章を読んで、後の1〜4の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります。※のついた説明は出題者が加えたものです）。

日本の中学校国語科では短歌や俳句を学びます。テストでは「この短歌（俳句）の句切れはどこですか」といった問題が出ることもあるようで、中学生向きの教育サイトでは短歌の句切れの見分け方を解説しているものもあります。それを真似て問題を出します。次の歌の句切れはどこでしょう。（中略）

A 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

若山牧水

こちらは「や」で切れ、切れの前が自分の思い、切れの後はそう思う理由という構成になっています。「白鳥って悲しくない？ 空の青にも海の青にも染まらないで、白く漂っているんだよ」と語りかけているわけです。

短歌は句切れがわかると意味がつかみやすくなるので、こういう問題を出すのだらうと思います。しかし、俳句の場合は、短いこともあり、句切れがわかって意味がわかりやすくなるということ、あまりないかもしれません。

B 夕顔やひらさかかりて襷深く

杉田久女

「夕顔や」で切れることは誰にでもわかります。「夕顔の」であっても句全体の意味は変わりませんが、「や」で切ったほうが夕顔を

眺<sup>なが</sup>めている作者を彷彿<sup>ほうふつ</sup>とさせます。「夕顔<sup>ゆげん</sup>の」になると、髷<sup>まげ</sup>を覗<sup>のぞ</sup>きこむ視線が強調される感じがしないでしょうか。

C たんぽぽのぽぽと絮<sup>わたげ</sup>毛<sup>げ</sup>のたちにけり

加藤<sup>かとう</sup>楸<sup>しゅう</sup>邨<sup>そん</sup>

逆にこちらを「たんぽぽや」と切れ字に変えてみても、やはり意味はそのままです。ただ、いったん「や」で切れてしまうと、「たんぽぽのぽぽ」という、楽しい音の発見が損<sup>そん</sup>なわれてしまいます。

D 万<sup>ばん</sup>緑<sup>りよく</sup>の中<sup>ちゆう</sup>や吾<sup>あこ</sup>子<sup>こ</sup>の齒<sup>せき</sup>生<sup>せい</sup>え初<sup>そ</sup>むる

中村<sup>なかむら</sup>草<sup>くさ</sup>田<sup>た</sup>男<sup>お</sup>

この句の場合も、「や」を「の」に変えても、意味的にはそんなに違<sup>ちが</sup>いはありません。しかし、「万緑の中や」と切れ字を使うことで、生命力のあふれる緑と子どもたちの生命がつながっているように感じられたことまでが伝わる仕掛<sup>しか</sup>けとなっています。

もともと俳句の切れは、連歌<sup>れんが</sup>や連句<sup>れんく</sup>で発句<sup>はっく</sup>（※最初に作る句）だけは言い切って独立することに由来しますが、言い切って詠嘆<sup>えいたん</sup>の意を示すことで、句の言葉そのもの以上のニュアンスを伝える働きをしています。俳句が②文字で大きな広がりを感じさせる秘密は、切れにあるといえるでしょう。

（堀田<sup>ほった</sup>季<sup>き</sup>何<sup>か</sup>『俳句ミーツ短歌 読み方・楽しみ方を案内する18章』による）

問1 — 線①「切れの前が自分の思い、切れの後はそう思う理由という構成になっています」とあるが、それを説明した次の文の

【 a 】【 b 】に当てはまる表現を、後の各群の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

・句切れの前には【 a 】【 b 】という思いが述べられており、句切れの後にはその理由は【 a 】【 b 】だと述べている。

a

イ	白鳥は哀れでかなしいのだなあ	ロ	白鳥は自由だからかなしくはないよ
ハ	白鳥は孤独でかなしくないのか	ニ	白鳥はどうしてかなしんでいるのか

b

イ	周りに溶け込めていないから	ロ	周りに導いてくれるものがないから
ハ	周りから信用されていないから	ニ	周りからの影響を受けていないから

問2 BとCの俳句と同じ季節の俳句を、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（引用の俳句は、すべて浜島書店『常用国語便覧』による）。

イ 鮫鱈あんこうの骨まで凍いててぶちきらる

加藤楸邨

ロ いわし雲い大いなる瀬せをさかのぼる

飯田蛇笏

ハ 炎天えんてんの遠とほき帆ほやわがこころの帆

山口誓子

ニ あ（お）をあ（お）をと空（お）を残（お）して 蝶（お） 分（お）かれ

大野林火

問3 次の文章はDの俳句についてのXさんとYさんの会話である。この会話を読んで、後の(1)、(2)の問いに答えなさい。

Xさん 「この俳句は、万緑の中、我が子の歯が生え始めた感動を表現しているんだね。」

Yさん 「万緑って【 c 】様子を表した言葉だよ。色のコントラストも印象的だよね。」

Xさん 「色のコントラスト?」

Yさん 「緑と【 d 】の対比が鮮やかできれいだなと思ったんだ。」

Xさん 「なるほど。短い俳句でもイメージが広がっていくね。」

Yさん 「俳句っておもしろいね。」

(1) 【 c 】に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 鮮やかな緑の竹林がどこまでも続いている      ロ 夏の木々の緑が見渡すかぎり広がっている

ハ 芽吹いたばかりの緑が生き生きとしている      ニ 森の奥深く緑の苔が岩を覆いつくしている

(2) 【 d 】に当てはまる漢字一字の言葉を、考えて答えなさい。

問4

②に当てはまる数字として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 五      ロ 十二      ハ 十七      ニ 三十一

#### 四

次の文の——線のひかれたカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 必死の形相で走る。
- ② これはカンカできない問題だ。
- ③ あの名人はジョウセキにとられない。
- ④ センレンされたデザインの服を買う。

本校の許可なく、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷するなど、第三者の利用に供することを禁止致します。